第4号
（2024年7月1日）

鶺鴒だより

発行：岩手保健医療大学
学報編集委員会
（委員長：学長　濱中喜代）
TEL：０１９－６０６－７０３０
http://www.iwate-uhms.ac.jp/
※鶺鴒「せきれい」には、「背筋を伸ばした美しい姿勢の鳥」という意味があります。

２０２４（令和６）年７月１日

令和６(2024)年度　入学式　式辞

■岩手保健医療大学の学長を務めます濱中喜代と申します。
■この佳き日にご入学された学部生、大学院生の皆様、誠におめでとうございます。岩手保健医療大学の教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。保護者の皆様におかれましては、喜びはいかばかりかとご拝察申し上げます。誠におめでとうございます。ここに式辞を述べさせて頂きます。
■新型コロナウイルス感染症のパンデミックから、はや5年が経ちます。新型コロナウイルス感染症は昨年5月に5類に変更されましたが、医療関連の教育機関では実習等においてまだまだ厳しい状況にあります。また本年元日に起こった能登半島地震では多くの建物が崩壊し、被災した人々はまだまだ日常生活が取り戻せておりません。国外においては、ロシアのウクライナへの軍事侵攻が２年以上も続き、さらにイスラエルのパレスチナ・ガザ地区への進攻の状況も厳しく、多くの方々の命が危険に晒されております。悲惨な攻撃が1日も早く終わることを願うばかりです。
■そのようななか、皆様は本学の学部生第８回生として、また大学院生第４回生として入学されました。
■社会情勢が厳しいなかにあって、人々の生命と生活を守る看護専門職を目指そうとしている皆様、また新たに看護学を極めようとしている皆様の決意に心から敬意を表します。それぞれ個々人の将来の夢は少しずつ異なるかもしれませんが、本学入学を機に大学生として、大学院生として研鑽を積み、仲間と切磋琢磨して、皆様が目指す夢を実現してほしいと思います。
■本学の建学の精神は「人々の生活と健康を高め、地域社会に貢献するケア・スピリットを備えた保健医療人」でございます。ケア・スピリットは本学が独自に造った言葉で「自ら進んでケアに向かう姿勢」と定義しております。
■同じ看護行為であっても、相手に寄り添い、相手の最善を目指して思いやりの心をもって、専門的な知識・技術に裏づけられたケアをすることは、只々漫然と形だけ行為することとは、大きな違いがあります。
■繰り返しになりますが、本当の看護は相手に寄り添い、相手の最善を目指して思いやりの心をもった、専門的な知識・技術に裏づけられたケアであり、ケア・スピリットがとても大切になるということでございます。
■本学では、学部生には4年間を通して、ケア・スピリットを身につけてもらい、看護を提供する場で、ケア・スピリットを十分に発揮できる看護職者の育成を目指します。大学院生にはケア・スピリットをさらに教育・研究・社会貢献に結び付け発展させることのできる実践的・研究的な資質を育みたいと思います。
■新型コロナウイルス感染症により、世界は大きく様変わりしました。少しずつ平常が取り戻せてきているとはいえ、看護学教育の場もまだ大きな影響を受けております。看護学の大切な学びである医療施設での実習はほぼ従来と同じようにできつつあります。これまで様々に工夫を凝らして対応して参りましたことを継続しつつし、今後も教育の質の維持・向上を図るために、さらに努力する所存でございます。
■ここに、45年前の1979年にノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサとその言葉を紹介します。マザー・テレサの誕生日は、1910年8月26日または8月27日とされています。誕生日の翌日にはキリスト教の洗礼を受けました。マザー・テレサは修道女として若い頃から献身的に働き、インドのベンガル地方に派遣された際に、スラムの貧しい人々の現実を目の当たりにします。1946年9月、マザー・テレサは汽車の中で「すべてを捨て、貧しい人のために働きなさい」という啓示を受けたとされ、この日は「決意の日」と言い伝えられています。コルカタ(カルカッタ)のスラムで働くことを決意したマザー・テレサはそれまで在籍していた修道会を退会しました。38歳のときのことです。そしてインドでの活動を本格的に始めます。その後、マザー・テレサは「神の愛の宣教者会」を創立し、修道院や重い病気などで瀕死の人の診療所、孤児院、ハンセン病診療所などを相次いで開設して、貧しい人への奉仕に生涯を捧げました。活動は世界中に広がり、ノーベル平和賞を受賞後も献身的な活動を継続し、「神の愛の宣教者会」の修道院の数はインドに159、世界に230になっていました。受賞18年後の1997年9月5日に永眠し、87年の生涯を終えました。
■マザー・テレサの言葉に「愛の反対は憎しみではありません。それは、愛がないことです。無関心です。だれにも望まれていないと感じるとき、人はもっとも深く傷つきます」というものがあります。人に関心を持つことは看護学においても大変重要なことです。看護学は人との関わりを基盤にする学問であるからです。皆様には看護する相手に関心をもち、愛をもって、自分の在り方を考えられる人になってほしいと願います。どうぞ、このことを心にとどめてください。
■最後に大学生、大学院生になる皆様に心構えについてお話しします。大学生の皆様はこれまでの高校生活では親御さん、先生方、周りの方々に守られて過ごしてきたのではないでしょうか。大学生になり、成年にもなりました。入学後は自分の行動に責任をもって、自分を律することのできる自律した人間を目指しましょう。「実践の科学である看護学」は人々を援ける尊いお仕事です。これから勉強するので今は確かなイメージがない方もいらっしゃるかもしれませんが、看護学を究めることは決して簡単なことではありません。まず、自分のことを、自分ができることをなすべきことを認識して、きちんとでき、なすようにしてください。そのことが今後の大学生活の基礎となります。そのうえで、困ったときにはいつでも教職員に相談してください。自分だけで抱え込まないようにしましょう。人に頼ることは人としてとても大切なことなのです。
■私はこれまでの大学における長きに渡る看護学教育の経験から、大学1年生から4年生まで指導していくなかで、大学生の皆様が4年間のあいだに本当に大きく成長していく様を目の当たりにしてきました。本学を卒業した先輩もまさにそうでした。看護学を学ぶという大学生活が皆様を人間としてより成長させる貴重な機会になりますことを心から願っております。
■大学院生は、皆様社会人としての経験・実績がありますので、是非これまでの経験を活かしつつ、研究を通して看護学を極めるとともに、学ぶものとしての時間を大切に、精進してください。
■新型コロナ感染症の影響でまだまだ生活の制限があり、学業の上でも行動制限を余儀なくされてはおりますが、皆様には学生生活を思う存分楽しみながら、学んでいかれることを心から祈念して、私からの式辞と致します🌼

令和６(2024)年度　入学生　宣誓

💜暖かく、やわらかい風に包まれ、春の訪れを感じるこの良き日に、私たちは、岩手保健医療大学に入学いたします。本日は私たち新入生のために、このような厳粛な入学式を挙行していただき、誠にありがとうございます。新入生を代表してお礼申し上げます。
💜思い返すと5年前、横浜港を出港したクルーズ船内での集団感染から始まったcovid-19。緊急事態宣言や学校の一斉休校など、国内外が混乱に巻き込まれてきました。そして、何よりマスクの着用により、顔も半分隠され、コミュニケーションにも違和感と困難を覚えました。そして昨年、コロナ対応は「5類」となり、転換期を迎えましたが、1月の能登半島地震が起き、私たちの心にまた更なる影響がありました。平常の生活が戻りつつあったところでの出来事で、改めて油断はできないことと医療の必要性を実感いたしました。
💜私が看護の道を志した理由は、人々の心身の健康を支えたいと思ったからです。しかし、逼迫した医療現場の中で、患者の方やそのご家族の心身を癒やし、看護をしていくことが果たしてできるのか、迅速な対応ができるのか、など不安がつきません。
「看護」は半端な気持ちでは到底できないお仕事だと心得ています。
💜また、AIやロボットではなく、私たち人間にしかできない職業であるとも思っています。そのため、その難しさにめげずに自ら進んで学びを深め、対応力と責任を本学での学修や実習を通して養っていこうと思っています。
💜私たちは、今日から岩手保健医療大学の一員として夢へと一歩ずつ進んでいきます。これから多くの挑戦や困難が待ち受けていますが、新しい仲間と互いに支え合い、乗り越えていきたいです。そして、変化の激しいこの社会で、必要とされる人材となれるよう研鑽を積んでいきたいと思います。
💜未熟な私たちではありますが、教職員の皆様、諸先輩方、これからのご指導のほどよろしくお願いするとともに、日々努力することをここに誓い、入学生代表の言葉といたします🌸

新入生の皆さん、ようこそ！

(2024年度新入生歓迎会より)

▲本学の「さんさサークル」が、太鼓を鳴らし笛を吹き踊りながら新入生を歓迎しました。

●4月11日（水）に新入生歓迎会が行われました。今年は株式会社ヘラルボニー岩手事業部シニアマネージャー木村芳兼氏を迎え「異彩を、放て。」というテーマで講演会を開催しました。障害をもつ方々の中には豊かな感性や大胆な発想、研ぎ澄まされた集中力や繊細な手先、といった可能性が秘められていることが紹介されました。学生からは「どんな人にも輝ける場所がある」「障害を個性として『異彩を、放て。』と表現されていたことがしっくりきた」、「障害を持っていることは一つの個性であるという考えがこれから役に立つと思った」などの感想が寄せられました。●次に3名の卒業生から寄せられたメッセージを上映しました。それぞれが看護師、保健師、養護教諭として働いており、現在の仕事の内容や、大学生活の過ごし方、国家試験対策、就職先の決め方などについて体験をもとにしたアドバイスがありました。新入生は集中して耳を傾けていました。「卒業生の温かい助言が嬉しかった」、「それぞれの職業のイメージを持つことができた」、「1年生のうちからコツコツと勉強して頑張りたい」といった感想が寄せられていました。教職員にとっては卒業生が職場で頑張っている様子を知り、また成長を確認できた機会となりました。●また、さんさ踊りが新入生の前で披露されました。揃いの浴衣を着て披露されたお囃子と手踊りの迫力は圧巻で、講義室内に一体感が生まれ盛り上がりをみせていました。早速、さんさ踊りに参加したいという希望が新入生から聞かれていました。●学生自治会企画では、新入生と上級生混合のグループを作り、自己紹介やアイスブレイクなどが行われていました。最初は新入生、上級生ともに緊張していましたが、徐々に和らぎ交流を深めていました。学生自治会の紹介も行われました。教員を交えての全体でのゲームは予想以上に盛り上がり、和やかな雰囲気で終えることができました。
●期待と緊張で入学した新入生にとって、大学生活にスムーズに移行するきっかけとなったことと思います。上級生からは「新入生に喜んでもらえて有意義だった」「自治会の紹介ができてよかった」という意見が聞かれていました🌸
（学生委員会委員長：石井真紀子）

編集後記

💚昨年『鶺鴒だより』と題した学報の創刊号を発行し、学内外の皆様へお届けすることができました。これからもこの学報が皆様の情報交流の場としてより一層親しまれ、お役に立てるよう発行を続けて参ります。💛本学は2017(平成29)年4月に開学し、今年で8年目を迎えます。今年、学部生は8期生が、大学院生は4期生が入学しました。💙本号では入学式での新入生宣誓と学長式辞に加え、上級生と教職員による新入生歓迎会の様子を取り上げました。💗歓迎会では上級生と交流する場が設けられました。親睦を深めることで、これから始まる大学生活に大きな期待を抱くことができたのではないでしょうか。💜学生生活を通じて一人ひとりが抱いている夢を実現されることを願っています。（編集子）